

日本生体医工学会 平成 26 年度 第 4 回理事会 議事録

日時： 平成 26 年 10 月 31 日 14 時～17 時

場所： AP 東京八重洲通り 11 階 O ルーム

出席者

理事 長	副理 事長	理事										監事		幹事							
佐久間 一郎	野村 泰伸	山家 智之	石原 謙	伊関 洋	大城 理	大須賀美 恵子	木村 裕一	楠岡 英雄	椎名 毅	砂川 賢二	中沢 一雄	橋爪 誠	増山 理	松田 哲也	松村 泰志	村垣 善浩	吉田 正樹	阿部 裕輔	牧川 方昭	植野 彰規	花房 昭彦
○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○

第 5 4 回 大会 長	第 5 4 回 事務 局長	北 海 道 支 部 長	東 北 支 部 長	甲 信 越 支 部 長	関 東 支 部 長	東 海 支 部 長	北 陸 支 部 長	中 国 ・ 四 国 支 部 長	九 州 支 部 長
岩田 彰	松本 健郎	清水 孝一	松木 英敏	小林 俊一	福井 康裕	平井 真理	中村 真人	木内 陽介	樗木 晶子
○	○	×	×	○	×	×	○	○	×

配布資料

- 26-4-2 平成 26 年度第 3 回理事会 議事録
- 26-4-3 平成 26 年度第 4 回理事会入退会審査対象者
- 26-4-4-① 第 36 回第 2 種 ME 技術実力検定試験報告書
- 26-4-4-② ME 技術教育委員会よりお願い
- 26-4-5-① 第 11 回生体医工学サマースクール実施報告書
- 26-4-5-② 第 4 回理事会審議事項（教育委員会）
- 26-4-6 IFMBE Societies Delegates and Officers（国際委員会）

- 26-4-7 2014 年度ユビキタス情報メディアと医療システム研究会構成
- 26-4-8 平成 26 年度選奨委員会
- 26-4-9-① 平成 27・28 年度代議員候補者選挙結果
- 26-4-9-② 平成 27・28 年度代議員候補者
- 26-4-10 2014.10.31 理事会 編集関係資料
- 26-4-12 第 54 回日本生体医工学会大会
- 26-4-13 第 55 回（2016 年度）、ならびに、第 56 回（2017 年度）日本生体医工学会大会の開催地に関して
- 26-4-14-① 生体医工学シンポジウムへの日本生体医工学会からの支援
- 26-4-14-② 大会開催にあたっての参加費・招待者の対応について（素案）
- 26-4-14-④ 他団体との講演・協賛状況
- その他-① 第 36 回第 2 種 ME 技術実力検定試験筆記試験問題
- その他-② 医療機器関連業界研究セミナー開催のお知らせ

議事

1. 理事会の成立確認（大城理事）
 - 成立要件を満たしていることを確認し、開会を宣言した。
2. 前回議事録承認の件（大城理事）：資料 26-4-2
 - 議事録を確認した。
 - 役職名を以下の通りに訂正した。
 - 誤) 会長 → 正) 理事長
 - 誤) 副会長 → 正) 副理事長
 - 理事会開催予定日の開始時刻を全て 14 時に訂正した。
3. 入退会状況の件：資料 26-4-3
 - 回覧資料および資料 26-4-3 にて入退会状況を確認した。
- 4-① 第 36 回第 2 種 ME 技術実力検定試験合格者報告（石原理事）：資料 26-4-4-①
 - 資料に基づき説明があった（受験者数 6561 名、最多）。
 - 表中の識別指数値について質問があり、担当理事により補足説明された。
 - 資料に記載の合格者案（2198 名合格、合格率 33.5%）が承認された。
 - 東京会場を探している旨の連絡があった。
- 4-② 中国上海における第 2 種 ME 実力検定試験実施について（佐久間理事長）：資料 26-4-4-②
 - 上海の学校からの希望内容と ME 技術教育委員会での議論内容について、資料に基づき説明があった。

- 以下の意見や疑問が述べられた。
 - 金銭の授受は発生しない形とした方が良い
 - しっかりと位置づけられた試験であり、国外に出て行くのは原則的に良い
 - 試験を通じて本学会のプレゼンスを上げることは良い
 - 中国生体医工学会との関係が不明確である
 - 中国生体医工学会の賛同があるかが重要であるため、事前に理事長間で議論をしておいた方が良い
 - 先方（上海の学校関係者）の狙いや試験合格者の利点が不明確である
 - 上海の学校が単独で学内行事的に実施する場合には、利用されるだけとなる恐れがある
 - 資格やキャリアアップ上の意味づけがある場合には、中国生体医工学会との関係が重要となる
 - 日本国内では学校単位での実施を認めていないため、中国で学校単位での実施を認める場合には、説明が必要となる
 - 実施開始の目標時期が不明確である
 - 受験者が多数の場合に、中国の実施者が利益を得ることになるのか不明確である
 - 拙速に進めず、確認を取りながら行う必要がある
 - 費用のやりとりは、契約をかわすなど、確実に書面で残すべきである
- 1月の理事会にて再度議論することとした。また、以下の点をME技術教育委員会に問い合わせることとした。
 - どういう位置付けで実施するのか
 - ✧ 募集対象は当該学校の学生のみ（学内行事的）か、全国（地域）で募るのか？
 - ✧ 想定する受験者数
 - ✧ 日本の大学との提携の有無
 - 試験を実施する中国側の利点が何か（就職に有利になるのか）
- その他、以下の指摘があった。
 - TOEICのように学校単位でME試験を実施したいという要望が、日本国内で出てくる恐れがある
 - 6000名超の受験者の会場確保を考えると、将来的には各校での実施を検討しても良いかもしれない
 - 議論の手順として、担当理事を介さずに理事長に議案が直接持ち込まれることは好ましくないため、担当理事にまず把握して貰うのが良い

5-① 第11回生体医工学サマースクール報告（吉田理事）：資料26-4-5-①

- 資料に基づき実施概要が報告された。

5-② サマースクール補助金増額について（吉田理事）：資料 26-4-5-②

- 資料に基づき、経緯説明と補助金増額の審議依頼があった。
 - 手続の関係で電気学会からの共催を得られず、分担金 10 万円未収
- 分担金額の最も多い生体医工学会が赤字相当金額を支出する、との主旨に基づき、補助金の増額が了承された。
- 会計処理の点からも適切に対処できるよう、財務担当理事と監事で協議することとした。
 - 本年度報告資料の共催学会リストから電気学会を削除する
- 来年度の事業の継続が了承された。
- 事業への関わり方（主催／共催）について議論が行われ、例年通り共催とすることとした。
- 参加要件に関して、少なくとも共催学会の一つについて会員である（あるいは会員となる）ことを追加するなど、教育委員会にて検討して貰うこととした。

6. IFMBE への jsmbe 役員及び WC2015 総会への参加代表の登録等について（椎名理事）：資料 26-4-6

- 佐久間理事長と椎名理事（国際委員会委員長）を参加代表として登録することとした。
- Young Investigator Fellowship や旧参加者会合など分担については、理事長と委員長で相談することとした。

7. 専門別研究会（ユビキタス情報メディアと医療システム研究会構成メンバー）（吉田理事）：資料 26-4-7

- 委員 8 名の追加（計 11 名）が承認された。

8. 平成 26 年度選奨各賞選定委員会委員案の件（村垣理事）：資料 26-4-8

- 資料に基づき委員案が提案された。
- 複数の委員会を兼任する委員への高い負担が懸念され、担当理事より補足説明があった。
- 名誉会員も定款の会員に含まれており、委員になれることを確認した。
- 委員案が承認された。

9-① 2014 年度代議員選挙報告（伊関理事）：資料 26-4-9-①

- 資料に基づき、選挙結果が報告された。
 - 投票送付数 1745 通
 - 返送数 300 通で 17.19%
- 代議員候補で会費未納者には納入を督促し、2 週間程度の期限を設けることとした。

9-②代議員候補の承認の件（伊関理事）：資料 26-4-9-②

- 代議員候補者が承認された

- 代議員選出規程に無意味と思われる項目があり、見直しを検討したいとの発言があった。

10. 編集関係の報告と審議（木村理事）：資料 26-4-10

- 生体医工学シンポジウム論文の現況が報告された（合計 58 編）
- ABE (Advanced Biomedical Engineering) への電子投稿システムの導入について審議が行われ、提案が了承された。
 - Editorial Manager を使用する
 - 年額 26 万円
 - 初期費用 45 万円
 - 3,500 円／投稿
- PubMed Central への掲載について審議が行われ、提案が了承された。
 - 初期費用 648,000 円（書式変換、学会誌刊行センター、既発表の 50 編の変換含む）
 - 年額 28 万円（書式変更 7,000／1 編）
- PubMed Central への ABE 論文の掲載を機に、非会員から ABE へ投稿された論文について、掲載料の徴収を検討することとした。
- 投稿に対する倫理委員会承認の取り扱いについて、資料案に基づき議論が行われ、以下の方針が決定した。
 - 今後は倫理委員会による承認を必須とする。承認がない場合には返却する。
 - 著者の所属組織に倫理委員会が無い場合は、来年の生体医工学シンポジウムの前までは猶予する。
 - 倫理委員会が予め指名する者による「倫理審査の必要無し」の決定も、編集委員会として容認する。
 - 広報を今後行う。文案は木村理事（編集担当）が作成する。
- 投稿に対する倫理委員会承認の取り扱いに関連して、以下の意見があった。
 - 医学系では倫理委員会の許可がなければ研究できない。近年はレトロスペクティブ解析用データでさえも、倫理委員会にかけるべきとの議論もでている。
 - 一般的な工学系では、これまでの文化や流れから倫理委員会の必要性や重要性を理解できていない状況がある。
 - 被験者が不利益を被るかどうかという点が問題なので、ヒトが被験者を行う研究機関は倫理審査委員会を持つべきである。
 - 工学系研究機関であっても機関長が管理できていないと問題を生じる恐れがある。
 - 学会名に「医」が入っていることから、倫理委員会の存在を前提とする本学会の立場を、工学系学会も意識して明示してはどうか。
 - 工学系からの投稿論文数減が懸念されるが、倫理委員会は研究者や学会を守るために必要である。
 - 研究奨励とともに、「個人情報を使用している」という意識を高める啓蒙活動が必要で

ある。

- 動物実験については動物愛護法と関わるため、各研究機関の動物実験委員会の審査が必須であることは議論の余地がない。
- 厚生労働省の倫理指針は、次は法律となる公算が高い。未承認の医療機器を使用した研究や適用外使用も対象になると予想される。

1 1. ホームページの改変に関して（野村理事）：

- ホームページ用レンタルサーバーの賃料支払に関して、広報委員長が立替請求する従来方式を変更し、学会に請求が直接くるよう変更する件が承認された。
- 支部ページや大会ページの集約を視野に、レンタルサーバーの契約内容を、複数管理者が管理できる契約（ビジネスプラン）に変更する件が承認された。また、変更に伴う賃料の増額（3万円）が承認された。
- Web ページの英語化について、専門業者に依頼している件が報告された。
- 集約に関しては、北陸支部の移行から着手することが報告された。

1 2. 第 54 回大会準備状況について（岩田大会長）：資料 26-4-12

- 準備状況について説明があった。
- 今後のスケジュールについて説明があった。
 - OS 企画公募中（12月1日締め切り）
 - 11月上旬に一般演題募集予定（12/26 演題申込〆切、 2/28 Proceeding 〆切）
 - 一般演題はポスター（1回はショットガン）
 - OS は口演
- 大会ページを学会契約サーバーに移行する方針が決まった。関連して、サーバーのアップグレード終了後に野村理事が岩田大会長に連絡することとした。

1 3. 第 55・56 回大会開催地について（大城理事）：資料 26-4-13

- 山家理事を中心に検討委員会を構成し、大会の在り方を議論することとした。
- 上記委員会に北陸支部長（中村先生）も加わることとした。
- 組織的な支援や大会の在り方を理事会にて検討することを前提に、第 55 回大会を中村先生にお願いすることとした。中村先生からは、支部の意見を聞いた上で回答するとの発言があった。
- 第 56 回大会については次々回の理事会にて決めることとした。

1 4-①. 生体医工学シンポジウムへの支援について（大城理事）：資料 26-4-14-①

- 生体医工学シンポジウムに関して、経緯と経済的支援要請について説明があった。
 - 各支部からの支援金で運営してきた

- 規模の拡大に伴い大学での実施が難しくなってきた
- 会場費など本体からの経済的支援をお願いしたい
- 生体医工学会本体から支援金を出すことが決定した。
- 全支部が参加する（開催を立候補できる）形態とすることが決定した。
- 開催を希望する支部が立候補し、開催が決定した支部に本体から支援金が支出される仕組みとすることが決定した。

1 4-②. 大会開催にあたっての参加費・招待者の対応について（松田理事）：資料 26-4-14-②

- 大会開催にあたっての参加費・招待者の費用案について資料の説明があった。
- 次回理事会にて議論することとした。
- 案が決定した場合も、準備が進んでいる第 54 回大会は適用外となることを確認した。
- 第 54 回大会長（岩田先生）より現在の参加費案について説明があった。また、資料に記載の案についても、持ち帰って検討するとの回答があった。

1 4-③. パルスオキシメーターのノーベル賞受賞に向けての運動について（中村北陸支部長）

- 標記について、分野の活性化も視野に、学会で後押ししてはどうかとの提案があった。
- IFMBE から表彰推薦依頼が届いていなかったか、佐久間理事長が確認することとした。
- 基本原理を記した論文があるかについて、開発者（青柳卓雄氏）が所属する日本光電工業(株)に中村支部長から問い合わせることとした。

1 4-④. 協賛等の状況（資料回覧）：資料 26-4-14-④

- 協賛等の状況について回覧資料により確認した。

1 4-⑤. その他

- 吉田理事（生体医工学科連絡委員会）より、医療機器関連業界研究のセミナー開催について案内があった。
- 中沢理事より、ME 機器安全対策検討委員会を設置するかについて継続審議中であるかの確認があった。島津委員長に問い合わせ回答を待ち、次回理事会までに決定していなければ廃止することとした。